

自己点検・評価について

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>「データサイエンス教育プログラム」は、令和5年度から全学生に対して開始しているが、令和5年度の実績で履修率38.6%を達成している（大学全体の収容定員の学生が、データサイエンス教育プログラムの授業を1科目以上履修している）。</p> <p>また、選択必修科目において、前年までに実施していた同様の科目の履修人数と比較して、最大で218.1%の増加をしている。</p> <p>本プログラムは、卒業までに修了条件を満たした学生に対して、修了証を発行する仕組みとなっているため、必修及び選択科目を1科目でも履修している学生数を「履修者数」とみなすと、順調に履修を進めている状況と判断できる。また、令和4年度以前に入学した学生に対しては、本プログラムの内6科目について、前年までの同様のシラバス内容の授業履修の読み替えを承認しているため、令和5年度の修了要件を満たした学生数は、11名である。</p>
学修成果	<p>令和5年度に、データサイエンス教育プログラムの学生履修者への授業アンケートの結果を分析すると、必須科目の平均満足度が81.3%、選択科目の平均満足度が81.1%、全科目の平均満足度が81.2%となっている。特に、このデータサイエンス教育プログラムのために新設した必須科目の「データサイエンス・AI基礎」の授業の満足度が、85.6%。選択科目の「デジタルコンテンツ制作」の満足度が87.1%と高い満足度をあげている。</p> <p>また、同アンケートの結果によると、「この科目分野をさらに深く学びたいになりましたか？」という設問に対して、全科目の平均で、87.2%となっており、さらにデータサイエンス・AIを学びたいという意欲をもっている。「この授業で新しい知識やものの考え方を得ることができましたか？」という設問に対しては、全科目の平均で、95.4%で、新しい知識を得ることができたという学修成果があげられている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>令和5年度に、本プログラムのために新設した科目の履修者への授業アンケートの結果を分析すると、良好な学修効果が得られている。特に、「データサイエンス・AI基礎」の授業においては、学生から「データサイエンスを学ぶことで、調査の目的に応じた観点でデータを観察することや、データの全体を俯瞰し、傾向を把握し、データの分類と分析を行い、次の施策を考えることが重要であり、創造力を用いて有用にデータを活用しよう実践していこうと考えるようになりました」などといった感想があげられ、前向きなデータサイエンス・AIの必要性の理解が得られている。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>令和5年度に、本プログラムのために新設した科目の履修者への授業アンケートの結果を分析すると、良好な後輩等への推奨効果が得られている。特に、「データサイエンス・AI演習」の授業においては、学生から「この講義を受けていく中で、4年生としての集大成を意識するようになり、これからのデータサイエンスとAIの時代に向けて、データサイエンス・AIと教育の重要性が拡大し、より広い視野で知見を、社会人になっても主体的に学んでいくことを意識するようになりました。AIが進化していく中で、学び続けるだけでなく、その活用法を考え、その教育についても発信できる存在になりたいと考えます。また、後輩にも、この履修を薦めたいと思っています」などといった感想があげられました。さらに、教職に就く4年生からは、自分の生徒たちにも教えていきたいと前向きな意見も挙げられている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムへの履修への周知はもちろんであるが、「データサイエンス・AIが、今後の学生生活だけでなく、将来の社会での活動において、いかに重要な学びであるか」を、学生に理解していただくようなメッセージを、大学公式サイトで、継続的に伝えるように取り組んでいる。また、履修ガイダンス時のオンデマンド映像や、ポスター、パンフレット等での周知も継続的に行っている。また、データサイエンス教育プログラムの紹介ガイダンス映像の1年生の閲覧率は100%を実現している。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは、令和5年度からの実施のため、修了生の企業等での活躍状況はまだ調査できていない。ただし、本プログラムを修了した4年生の進路は、「大手ICT企業」「法律事務所」「大学院」「中学校教員」等に進学している。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>特別授業として、令和5年度には、IP企業とのコラボレーションにより「プログラミングワークショップ」を実施した。その企業からは、データサイエンス・AIの基礎的知識を学ぶこととともに、そのデータ分析から、新しい価値をつくる人材を育ててほしいとの要望もあった。これに応じるために、本学では、本プログラム以外でも特色ある授業（例：有識故実や香道等の日本伝統文化、キャリアデザインのためのフィールドワーク調査を行うインデペンデントスタディ、韓国の学生とのグループによる調査分析等）等と、今後連動して、データサイエンス・AIのスキルを活用し、社会に新しい価値を考えることを、授業内容に盛り込んだ特別授業の実施等を検討していく。</p>